

令和6年度 国東市：全国学力・学習状況調査結果（中学校：国語）

1 結果のポイント

・全体結果

対象生徒数	平均正答率（％）
国東市（162人）	60
大分県（公立 8,336人）	58
全国（公立 875,574人）	58.1

・分類別結果

分類		区分	平均正答率（％）		
			国東市	大分県	全国
学習指導 要領の内容	知識 及び技能	（１）言葉の特徴や使い方に関する事項	58.0	58.8	59.2
		（２）情報の扱い方に関する事項	61.7	57.8	59.6
		（３）我が国の言語文化に関する事項	79.6	80.3	75.6
	思考力・判 断力・表現 力等	A 話すこと・聞くこと	63.6	58.3	58.8
		B 書くこと	64.5	63.4	65.3
		C 読むこと	51.9	47.5	47.9
評価の観点		知識・技能	62.9	62.1	62.0
		思考・判断・表現	58.6	54.6	55.4
		主体的に学習に取り組む態度	－	－	－
問題形式		選択式	62.8	60.5	61.0
		短答式	63.4	61.9	61.8
		記述式	49.8	44.6	45.5

- ・平均正答率での全国平均との比較では、差が+2.0ポイントで全国平均を上回った。
- ・内容別の全国平均との差は「言葉の特徴や使い方に関する事項」で－1.2ポイント、「情報の扱いに関する事項」で+2.1ポイント、「我が国の言語文化に関する事項」で+4.0ポイント、「話すこと・聞くこと」で+4.8ポイント、「書くこと」で－0.8ポイント、「読むこと」で+4.0ポイントであった。

2 課題が見られた問題と指導の改善事項

1 話合いをする（「フィルターバブル現象」）

設問二

①趣旨

資料を用いて、自分の考えが分かりやすく伝わるように話すことができるかどうかをみる。

◆学習指導要領における内容

〔第2学年〕思考力、判断力、表現力等 A 話すこと・聞くこと

ウ 資料や機器を用いるなどして、自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫すること。《表現、共有（話すこと）》

②解答類型と反応率

1 二		生徒数の割合	
問題の概要		国東市	全国
話合いの中で発言する際に指し示している資料の部分として適切な部分を○で囲む			
◎ 1	〈図〉の破線囲みの内側の部分を囲んでいるもの	66.7	68.5
2	上記以外の解答	30.9	28.0
3	無解答	2.5	3.5

◎は正解

◆分析と課題

○解答類型2の反応率は30.9%である。このように解答した生徒は、資料を用いて、自分の考えが分かりやすく伝わるように話すことに課題がある。

③学習指導に当たって

資料や機器を用いて、自分の考えが分かりやすく伝わるように話す

聞き手に自分の考えを伝える際には、分かりやすく伝わるように資料を用いるなどして表現を工夫することが重要である。資料や機器を用いるのは、話の要点や根拠を明らかにしたり、説明を補足したり、中心となる事柄を強調したりするなど、聞き手に分かりやすく伝えるためである。このことを踏まえて、資料や機器を適切に用いることができるよう指導することが大切である。

例えば、話したり話し合ったりする際に、目的や状況、相手に応じて、必要な資料や機器を検討する学習活動が考えられる。話し手の考えを正確に伝え、聞き手の理解をより深めるには、どのような資料や機器が必要なのか、また、それらをどのように用いれば効果的かなど、具体的な状況を想定して検討することが重要である。また、実際に用いた資料や機器が効果的であったかについて、聞き手と共に振り返ることも有効である。指導に当たっては、話し言葉の特徴や、視覚に訴えることの効果などを踏まえて考えることができるように、第2学年〔知識及び技能〕の(1)「イ話し言葉と書き言葉の特徴について理解すること。」などとの関連を図ることが考えられる。

3 物語を創作する（「紙の辞書」）

設問1

①趣旨

目的や意図に応じて、集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にすることができるかどうかをみる。

◆学習指導要領における内容

〔第1学年〕思考力、判断力、表現力等 B 書くこと

ア 目的や意図に応じて、日常生活の中から題材を決め、集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にすること。《題材の設定、情報の収集、内容の検討》

②解答類型と反応率

問題の概要	生徒数の割合	
	国東市	全国
物語を書くために集めた材料を取捨選択した意図を説明したものと して適切なものを選択する		
1 と解答しているもの	4.9	4.9
2 と解答しているもの	13.0	9.9
◎3 と解答しているもの	79.0	81.4
4 と解答しているもの	2.5	2.9
5 上記以外の解答	0.0	0.2
6 無解答	0.6	0.7

◎は正解

◆分析と課題

○解答類型1、2、4の反応率の合計は20.4%である。このように解答した生徒は、目的や意図に応じて集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にすることに課題がある。〈物語を通して伝えたいこと〉が「紙の辞書を久しぶりに使って気付いたよさ。」であることを捉えることができていないものと考えられる。

解答類型2の生徒は、【ノートの一部】の〈もとにする体験〉に書いた情報の中から、「最近ではオンライン辞書ばかり使っている。」と「紙の辞書を久しぶりに使った。」を取り上げることで、「紙の辞書よりもオンラインの辞書の方がよいこと」をより明確に伝えようとしていると判断したものと考えられる。

③学習指導に当たって

目的や意図に応じて、集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にする

物語を創作する際には、目的や意図に応じて題材を決め、伝えたいことを考えながら、書くための材料を集める必要がある。その上で、伝えたいことが明確になるように、材料を比較しながら取捨選択したり、関係付けをしてまとめたりするなど、集めた材料を整理することが大切である。

例えば、物語を書くために集めた材料を、構想を練りながら整理する学習活動が考えられる。物語を通して伝えたいことや、登場人物や状況の設定など、物語を書くために考えなければならないことを出し合い、それらを観点として集めた材料を整理するなど、自分がこれから書こうとする物語の構想を具体化できるように指導することが効果的である。その際、必要に応じて、交流しながら、材料を整理する観点を増やしたり、足りない情報を集めたりできるようにするなど、個々の生徒が自分に合った学習の進め方ができるようにすることが大切である。

4 短歌を紹介する（「月と風景」）

設問一

①趣旨

表現の技法について理解しているかどうかをみる。

◆学習指導要領における内容

〔第1学年〕知識及び技能

(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項

オ 比喩、反復、倒置、体言止めなどの表現の技法を理解し使うこと。《表現の技法》

②解答類型と反応率

4 一	生徒数の割合	
	問題の概要	
	短歌に用いられている表現の技法を説明したものとして適切なものを選択する	国東市 全国
1	と解答しているもの	11.7 7.6
2	と解答しているもの	21.6 20.5
3	と解答しているもの	13.6 15.1
◎4	と解答しているもの	51.2 54.9
5	上記以外の解答	0.0 0.1
6	無解答	1.9 1.8

◎は正解

◆分析と課題

○これまでの調査で、平成 24、26、27 年度、R4 年度の設問において、「表現の技法について理解すること」に課題が見られた。これに関連して、本問でも、同様の趣旨で出題したところ、正答率は 51.2%であった。今回の結果から、表現の技法の理解について、引き続き課題があると考えられる。

○解答類型 1～3 の反応率の合計は 46.9%である。このように解答した生徒は、表現の技法について理解することに課題がある。「体言止め」が文末を名詞（体言）で終わらせる表現の技法であることを理解していないか、「夕暮れ」が名詞（体言）であることを理解していないものと考えられる。

加えて、解答類型 1 の生徒は、「擬人法」が、人でないものを人に見立てて表現する技法であることを十分に理解していないものと考えられる。また、B の短歌の「風さやか」の意味を適切に捉えることができず、風を人に見立てた表現と捉えたものとも考えられる。解答類型 2 の生徒は、「直喩」が「ように」、「みたいに」などを用いて、比喩であることを明らかに示してたとえる表現の技法であることを十分に理解していないものと考えられる。解答類型 3 の生徒は、「倒置法」が主語、述語などの語順を通常と逆にして表現する技法であることを十分に理解していないものと考えられる。

③学習指導に当たって

具体的な表現と結び付けながら、表現の技法について理解する

文学的な文章を味わうには、用いられている語句や表現が、文章の内容を伝えたり印象付けたりする上で、どのように働いているかを考えることが重要である。特に、短歌や俳句などは、限られた音

数の中で情景や心情を伝えるために表現が工夫されている。それを踏まえ、描写の仕方や表現の技法などに着目することができるように指導することが大切である。

例えば、表現が工夫されている詩歌を取り上げ、紹介し合う活動の中で、表現の技法について学習したことを想起し、理解を深める活動を設定することが考えられる。その際、「擬人法」、「比喻」、「倒置」、「体言止め」などが、どのような特徴をもつ表現の技法なのかを名称と結び付けて確認し、その知識を学習活動の中で使えるように指導することが大切である。また、同じ表現の技法が使われている作品を比較して、効果の共通点や相違点を検討するなど、具体的な表現と結び付けながら個々の表現の技法について理解を深めることが効果的である。

学習指導に当たっては、平成 26 年度全国学力・学習状況調査【中学校】国語 B 1 に係る授業アイデア例「表現の技法を用いて、読書についての標語を作る～表現の仕方について、根拠を明確にして自分の考えをまとめる～」も参考になる。

(参照) 「平成 26 年度【中学校】授業アイデア例」 pp. 9-10

https://www.nier.go.jp/jugyourei/h26/data/mlang_03.pdf